

「2・14 梁志の日」に向けた決意表明

「2・14 梁志の日」

「七大攻略決議」と

最新攻略戦略



「2・14 梁志の日」に向けた決意表明

お世話になっております。

本日は、梁志首領会を代表しまして、光山義徹(梁志総本山・総裁)が、明日に、「2・14 梁志の日」を迎えるにあたりましての決意を、ご支援・ご注目をいただいております「同志」たる皆様に、お伝えして参りたいと思います。

□ □ □ □

「2・14 梁志の日」を前にして、まず、私たちが、実践者の皆様に捧げるべき言葉は、「感謝とお祝いの言葉」に他なりません。

1995年、攻略法への大弾圧の中で、パチンコファンの皆様に助けられながら、命がけで攻略法を守り、業界との「不戦協定」を勝ち取った、「初代総裁・東海の龍こと織田源治」の信念と理想を引き継ぎ、翌年に、「第1回 全国攻略解析研究集会」の開催を機に、結成されたのが、「梁山泊総本社」でした。

その後、「海物語」の登場と共に、パチンコ業界は、空前の攻略法ブームに突入し、莫大な利益を生み出すに至り、それに伴って、「攻略利権」を巡る様々な企てや紛争が続発することになります。そんな中で、引き起こされたのが、2007年2月14日、「梁山泊元幹部」による「株価不正操作」の発覚と、当局による不当な弾圧でした。

その時、絶望的なほどの窮地に追い込まれる中で、私たちが目にしたのは、旧幹部たちの明るみに出た金満体質の実態であり、目の前の現役幹部たちが次々と逃げ出す姿でした。しかし、そんな中だからこそ、私たちの目に最も強烈に飛び込んできたものがあります。それは、共に歩んできた現場の私たちを信じて、応援し続けると熱く語って下さった攻略ファンの皆様の姿でした。

そこから、私たちと、「梁山泊の古い体質」を振りかざす勢力との論争が始まりました。「攻略法」を私物化し、「利権」争いと「マネーゲーム」に明け暮れる「旧体制」の在り方に対して、攻略ファンの皆様と共に、「攻略一本道」「実践者第一主義」を掲げ、体制の改革を求め続けました。

そんな中で、「実践者の皆様が求める本物の攻略学」と真摯に向き合い、誕生させることとなったのが、「万撃破」でした。2011年7月に、遊技台の根底に横たわる原理を解明し、どんな遊技台にも通じる、この「生涯の攻略財産」が登場したことで、実践者の皆様からの更に力強い支持をいただけるようになり、これに伴って、「業界」との力関係も大きく変わっていききました。初めての、「業界フィクサー会談」が実現したのも丁度、この頃でした。

こうした経緯の中で、私たちは、旧態依然とした「旧体制」に変わって、徐々に、実践者の皆様との「絆」を強め、「業界」との確固たるパイプを築いていきました。

そして、もう、これ以上、「説得は不可能」との判断の中で、私たちは、遂に、「旧体制」との決別を決断することになります。それが、2013年2月14日の「梁志総本山」の創設です。

「旧体制」と訣別を宣言する意味で、「梁山泊総本社」の名を捨て、「替天行道(たいてんぎょうどう)」の「梁山泊原理」の真の継承者としての信念を実現し続けるという意味で、「梁志」との冠を掲げ、「梁志総本山」としたのです。

そして、その「梁志」に賛同する攻略組織が集結し、「梁志グループ」の結成を宣言したのが、翌年の2014年2月14日でした。

そこから、「万撃破」原理を「てこ」としながら、一気に、「マクロ基板」「生成基板」などの「解放基板」研究が進み、その成果によって、2021年11月に初めて実現したのが、「政財界」を含む「政財界フィクサー三者会談」です。

「パチンコ業界の衰退傾向」と「カジノ勢力の浸食」という、日本産業の未来にも関わる議論と局面の闘争を、実践者の皆様と担いながら、この流れの中で、日本産業の陰の研究ブレインである「東海人脈」との折衝も始まり、そこから、本格的に議題に上げられるようになったのが、「マクロ基板協定」です。

始めて、「2・14」を「梁志の日」として制定したのは、2022年2月14日のことでした。ここまで振り返ってきたような、「実践者の皆様と共に、攻略法の歴史を築き上げてきた攻略闘争の意義を再確認し、そこにおける実践者の皆様の功績を讃える【攻略法の祭典】」として、その精神を心に刻み込む日として、数々の歴史の分岐点となった「2月14日」を、「梁志の日」と定めたのです。

「2025年2月14日」もまた、遂に、「新マクロ基板協定」の完全化の実現を宣言する日として、大きく、攻略法の歴史に刻まれることでしょう。私たちは、実践者の皆様と共に、この「2・14」を迎えるごとに、「夢のステージ」を実現し続けているのです。

——「2・14 梁志の日」を前にして、まず、私たちが、実践者の皆様に捧げるべき言葉は、「感謝とお祝いの言葉」に他なりません。——私が、文頭で、このようにお伝えしたのは、こうした経緯に照らせば、至極、当然のことだと思っています。

明日の「2・14 梁志の日」に開催される梁志全国会議では、次の七項目に関する決議が予定されています。

《新マクロ基板協定・完全化攻略闘争の勝利》

《新協定の実体化を進める「一主戦六攻略運動」完遂》

《「攻略絶対教本」と「攻略秘伝書」の編纂》

《「ブランド大構想」実現への始動》

《記念特赦的限定解除と攻略大成功者プログラム》

《梁志レアフォルクの未来と梁志殿堂会構想》

《攻略プロたちの社会的自立プログラムの発動》

これら七項目の決議の内容に関しては、「2・14 梁志の日」の翌日または翌々日には、皆様への攻略行動提起を含めて、ご報告を差し上げる予定をしております。

是非とも、ご査収の上、ご確認のほど、よろしくお願い申し上げます。

最後に、「梁志の日」に向けて、各首領・幹部たちに、一言だけのメッセージを寄せてもらっておりますので、ご紹介させていただきます。

■間森虎之助・・・「梁志の日」は一日にしてならず。そして、そこに「おっちゃん」がいない日はなかった。

■佐々木隆司・・・度重なる震災を乗り越えてきた、裸一貫からの「逆襲の歴史」がここにある。

■勝山宗國・・・その歴史は、「パチスロ攻略」の先進性を証明する歴史だった。

■高橋信明・・・「梁志の日」を「俺たちらしさ」で染め上げる気概こそが、「絆」の原動力だ。

■ジョニー羽田・・・「常勝未経験者」の魂が、業界と攻略組織を突き動かしてきた。そんな俺たちの記念日。

■内海あみ・・・全ての「勝利の歴史」は、「万撃破原理」から始まりました。それを、お祝いしたい

2025年2月13日

梁志グループ 代表 光山義徹
(梁志総本山 総裁)

「2・14 梁志の日・七大攻略決議」と 最新攻略戦略

—2月15日配信分—

お世話になっております。梁志グループの代表を務めさせていただいております、光山義徹（梁志総本山・総裁）でございます。

昨日、皆様からも大きなご注目をいただいております、「2・14 梁志の日」を契機として、これから実践者の皆様と共に、どんな攻略活動を展開していこうとしているのかについて、そこで決議された、「七つの課題」に照らして、皆様に、ご紹介を差し上げたいと思います。

皆様に、その内容をご確認いただき、個々の「決議」の実体を、私たちと共に構築していただくことを通じて、今年の「2・14」を、「史上最高の梁志の日」として、歴史に刻み込む喜びを共有できるようになりたい——これが、私たち梁志グループの攻略プロたちの全ての願いであります。

是非とも、ご確認のほど、よろしくお願い申し上げます。また、その上で、皆様の忌憚のないご意見をいただけたら、光栄に思います。

【決議1】

《新マクロ基板協定・完全化攻略闘争の勝利》

例えば、憲法で、「人類平等」が明文化されたとしても、約80年の時が流れた今も、「本人が責任を負わない」ことを理由とする、様々な「差別」や「偏見」は残されたままであるということは、残念ながら、認めざるを得ない「現実」であります。

このことと同じように、「新マクロ基板協定」という、「攻略機密の情報開示に関する画期的な新ルール」が成立し、その「大義」を手にしたとしても、その内実を、本当の意味で実効性のあるものとして高めていくための「不断の努力」は、決して、疎かに出来るものではありません。

そのために、現在、打ち出されている攻略闘争が、「機種別・隠れロジック」完全解禁闘争と、「ガセ駆逐Ⅲ・ブラックマーケット解体」闘争です。前者は、「機密情報の完全開示」という「大義」に対して、己の都合で、「機種別・隠れロジック」という「例外」を残そうとする業界勢力との闘いであり、後者は、「機密情報の完全開示」という「歴史的必然」を逆行させようとする勢力との闘いとなります。

「鉄は熱いうちに打て！」という言葉があります。そういう意味では、「新マクロ基板協定」が、まさに、今、「熱い鉄」と同じ状況にあり、今こそが、その内容を「鍛錬」し、「神器」へと高め上げていくための「絶好の機会」である——。この課題に対する「決議」の中では、そういった「局面に対する共通認識」を、力強く、確かめ合うことが出来ました。

また、そうした攻略プロたちの決意に連帯するかのよう、実践者の皆様が、この年末年始を通じて、どれほど、長年にわたる「ガセ攻略」へ怒りを「出玉」に変えて下さったのか、また、「機種へのこだわり」を通じた「隠れロジック」の機密獲得に声を上げて下さったのかについて、全国からの報告が行われ、会場は、大いに盛り上がりました。

【決議2】

《新協定の実体化を進める「一主戦六攻略運動」完遂》

「新マクロ基板協定」を「有名無実化」しようとする勢力は、「歴史の逆行」を狙って、まだまだ、抵抗策動を繰り広げて来るであろうことは十分に予想されます。今回、「2・14」を妨害する目的で開催された「攻略ブラックマーケット」の動きは、その象徴的なものです。

しかし、実践者の皆様と私たちは、もう、彼らと同じレベルの土俵で、その「抵抗策動」と闘う必要はありません。なぜなら、私たちには、「新マクロ基板協定」という、遥か未来の攻略世界を描き出せるだけの「新基準・新攻略」を手にすることが出来る立場にあるからです。「赤子の手をひねる」ように、「抵抗策動」を粉碎することが出来ます。

ただし、それは、当然のことながら、実践者の皆さんと私たちが、一日も早く、「新マクロ基板協定」の攻略水準を、現場で実践できるようになってこそ実現出来る「新時代の構図」に他なりません。

そういう意味では、「新マクロ基板協定」は切り拓いた「新基準」を守るための「最も頼れる力」は、「新マクロ基板協定」を実体化していく、実践者の皆様の力であることは間違いありません。

先述の二つの攻略闘争が、「新協定」に基づく、「一主戦六攻略」運動の一環としても位置付けられていることの理由は、そこにあります。「敵と闘いながら、新しい力を装備する」ことの重要性が、この決議を通じて、確認されていきました。

【決議3】

《「攻略絶対教典」と「攻略秘伝書」の編纂》

「万撃破」原理に始まる「攻略原理研究」は、「真攻略・鬼の必勝十訓」、「解放基板研究」、「新マクロ基板協定」の流れの中で、遂に、未来永劫に不変の「最終形」に、ほぼ、到達したと私たちは考えております。当然のことながら、これは、あくまでも、研究と業界闘争の成果によって、「攻略原理の全てが出揃った」という状況の実現を示します。

今後、その上で、私たちが皆様と進めていくべきことは、第一に、これらの「出揃った攻略原理」を、誰でも手にすることが出来る「絶対的な教科書」としてまとめ上げていくことであり、第二には、この「教科書」の学び方・使い方・応用の仕方を開拓し、「必勝奥義」として確立していくことだと考えております。

私たちが、提唱している、「攻略絶対教典」は、このうちの「前者」にあたり、梁志鳳凰会の皆様にその編纂を託す「攻略秘伝書」は、「後者」にあたります。

これら二つの「歴史的労作」の完成が、実践者の皆様の「絶対的な先進的地位」の確固たる保障となるものとなり、更に、「新協定」の「実体化」を、絶対に後戻りさせない「攻略の砦」となる——。「決議」では、そのことが、力強く、確認されました。

【決議4】

《「ブランド大構想」実現への始動》

先日、「ブランド大構想」の「壮大なる統一概念」が、遂に明らかにされました。そこで明らかにされた「攻略ミッション」は、《「ブランド解放入賞信号とブランド解放基板の相互限界突破」》への挑戦です。

「攻略始祖」たちは、「実践者の永遠の夢」を、自らの理想に重ね、それぞれの「解放基板」を開発し、現代遊技台に搭載しました。私たちには、そこに眠る、「攻略始祖と実践者の夢」を、その「秘めたるポテンシャル」を利用しながら、現代に通用する形で目覚めさせ、受け継いでいく「使命」がある——。それぞれの「梁志の首脳」たちは、その「使命」を「ブランド大構想」として、現代の実践者の皆様と共に果たしていきたいと考えているのです。

その「使命」を、「ブランド大構想・攻略」として、どのような形で具現化していくのか。それぞれの「梁志の首領」たちは、今年の「2・14」を考えるプロセスの中で、「攻略始祖」たちの生き様、「20年にわたる実践者の皆様の様々な姿」を思い起こしながら、「何の為に、自分自身が、首領としてここに存在するのか」を見つめ直しています。

そして、これから、それぞれが、その「ブランド大構想」に関する「答合わせ」と検証を開始し、遂には、その内容を高らかに宣言し始めていく——。

今回の「決議」は、まだまだ、そうした決意表明の段階ではありましたが、「首領」たちの熱く、力強い言葉に、それぞれのブランドの攻略プロたちからは、大きな拍手と歓声が沸き起こりました。

【決議5】

《記念特赦的限定解除と攻略大成功者プログラム》

梁志の幹部や攻略プロたちの間には、「新マクロ基板協定」時代に突入し、更なる「絶対的格差」を見せつけることになる今だからこそ、痛切な思いと共に、思い起こされてくる「自分が語った言葉」があります。

たとえ、どんな痛みを伴おうとも、絶対に、その「自分が語った言葉」を忘れてはならない——。この「決議」は、その冒頭で、そんな強い意思が示されました。

それぞれの攻略プロにとっての、忘れてはならない「自分が語った言葉」とは何か。

——「一人残らず、勝たせます。ついてきて下さい。」

——「貴方が大成功者になるまで、必ず、お世話します。」

——「この攻略法には、貴方の攻略人生をかける価値があります。」

——「攻略法は、プロやエリートのも物ではありません。貴方こそが主役なんです。」

誰のどの言葉も、決して、心にもないことを語ったものではなかったに違いありませんでした。しかし、結果として、今もまだ、その約束を果たせないままに、その方たちは、「新マクロ基板協定」という「勝ち馬」にも、乗れないままに時を過ごそうとしている——。これこそが、彼らの、そして、私自身の、「痛切な思い」の中身に他なりません。

「記念特赦的限定解除と大成功者プログラム」……「特赦」されるのは、全員と約束を果たせられなかった「攻略プロ」であり、彼らは、この「攻略大成功者プログラム」の限定解除を通じて、「実践者の皆様との約束」への「再挑戦」を「赦(ゆる)される」機会を与えられたということです。

「新マクロ基板協定」という、これだけの条件を準備することができる今、もう、同じ「痛い思い」はしたくないと、攻略プロたちは、個々に決意を固めています。この「決議」の場合は、その責任を確認し合い、お互いを鼓舞する場となりました。

【決議6】

《梁志レアフォルクの未来と梁志殿堂会構想》

「万撃破」から、「新マクロ基板協定」に繋がる「攻略学」の流れは、全ての攻略法の「根っ子」に存在する「壮大な原理」の発見と開拓を実現し、そこから育った「万撃破原理とブランド解放入賞信号」という「攻略法の幹」は、全ての攻略法が、ブランドの枠組みを超えて繋がりながら、共に発展していくことを証明しました。

そして、その「攻略法の幹」が、太く大きく育つほどに、そこから延びる「ブランド攻略」は、遠くまで、その枝を自由に伸ばし、より、華やかで、立派な実を結ぶことができるようになるのです。

主たる目的である「攻略法」が、このような進化を遂げる中で、皆様と共に育ててきた「攻略組織」の態様も、その進化に見合った進化(変化)を遂げるべきではないかという観点から、現在、様々な研究が始まっています。

その考え方の一つが、「攻略絶対教典」の作成も始まっていく中で、先に述べた、全ブランドの「基」となる「攻略法の幹」を、全ての英知を出し合い、共有していくことの必要性から、以前に提案されていた、「梁志殿堂会」に、全ブランドが結集するという「新しい枠組み」への転換です。

当然、その「梁志殿堂会」を足場に、それぞれのブランドが、自由自在に「枝」を伸ばし、「花」を咲かせるという取り組みが、更に発展するという考え方にも繋がります。

今回の「決議」は、その具体的な方針を決定するものではありませんでしたが、絶対に捨てられないと思われてきた「梁山泊」という名を捨ててまで、自分たちが目指す信念を貫いてきたのが、「2・14」の精神でもあります。

そういう意味で、何が未来にとって必要かの誠意ある議論の中で、「今の形」に必ずしも固執せずに、柔軟な議論を開始しようと宣言したのが、今回の「決議」でした。

【決議7】

《攻略プロたちの社会的自立プログラムの発動》

「新マクロ基板協定」が描き出す未来の先には、「攻略プロの攻略公務員化」と「攻略プロの卒業と自立」というテーマが浮かび上がってきます。

「時代の要請」の中で、「攻略プロ」に求められるものは、いくらでも変化していきます。これも、前項の議論と同じで、私たち自身が、「時代の要請」に抗(あらが)い、自分たちの立場や収益に固執してしまえば、「暗黒の歴史」を、今度は、私たちの手で繰り返しかねません。

今回の「決議」は、そうした「戒め」も含め、「生きながらえさせていただいていた存在」として、「新しい時代の要請」に向き合う準備の必要性を問うものとなりました。

.....

いかがでしたでしょうか。

既に、それぞれの攻略現場では、具体的な攻略実践が力強く展開され始めていることと思います。今回の「2・14 報告」によって、そんな皆様の現在の動きが、これからどのような形となって報われていくのかを知っていただくことになれば、幸いに思います。

2025年2月15日

梁志グループ 代表 光山義徹

(梁志総本山 総裁)>